

ホセ・マルティ, フィデル・カストロ, 池田大作を語る—よりよき人類への信念 (1)

人間学科共通科目「人間学」講演

ホセ・マルティ, フィデル・カストロ, 池田大作を語る —よりよき人類への信念¹

カルロス・ミゲル・ペレイラ・エルナンデス²

日時：2017年5月11日（木）午前9時

会場：創価大学 S201 教室

〔講演〕

本日は、僭越ながら、ホセ・マルティの人間主義という壮大なテーマに関する講演をさせていただくことになりました。世界一普遍的なキューバ人＝ホセ・マルティ、そして、創価学会インタナショナルと創価大学を創立した池田大作博士、この二人のつながりと、二人の共通点についてお話しをさせていただきます。

池田博士が語るキューバ独立の使徒ホセ・マルティ

池田博士はキューバの国民的英雄ホセ・マルティの本質についてこのように仰っています。「キューバの偉大なる精神の父であり、共和国の英雄であるホセ・マルティは、“民衆が疲れても、決して諦めない人間”に歴史変革の光明を求めていた」そんな人であったと（講演 p.80）³。このように、人間の尊厳を核とするマルティの信念に理解と賛同を示されています。

池田博士は、マルティの倫理哲学を精力的に普及してられました。その

(2)

功績が称えられ、1996年6月25日のキューバ訪問の折に、国家評議会の「フェリックス・バレラ最高勲章」と、名門ハバナ大学の「名誉文学博士号」が贈られています。そして、さらに、ホセ・マルティ研究所をはじめとするキューバの諸機関との協力関係、キューバ国民に対する連帯と友愛、キューバ社会の指標理念に対する理解、世界平和への献身などが認められ、2016年1月29日、ホセ・マルティ文化協会から栄えある「美徳の有効性」賞が贈られ、池田博正 SGI 副会長に代理授与されています。

19世紀に思想家、著述家、政治家、革命家として活躍したホセ・マルティ。彼は、優れた詩人でもありました。人間が天地と一体化するような繊細な詩を作りました。キューバ独立の使徒と呼ばれたマルティの詩心について、池田博士は次のように評価しています。「現代社会から、「詩心」の喪失が指摘されて久しくなりますが、それは、現代人が、“断片”と化し、閉ざされた空間で呻吟している証左といわざるを得ません。だからこそ「詩で教育せよ！」というホセ・マルティの呼びかけが、強く迫ってくるのであります」（講演 pp.83-84）

仏典では、人間の生命と自然環境の`相関関係、を説いています。また、人間の内なる小宇宙と、外なる大宇宙との密接不可分な関係性を精妙に説いています。宇宙の森羅万象が人間の心に包括されるという法理です。マルティは、「人間は統一された宇宙」と洞察していましたが、この考えも仏教に呼応していると池田博士は仰っています。（講演 p.87）

マルティの人生は決して楽なものではありませんでした。激動の運命をたどります。しかし、波乱に満ちた人生を歩んだからこそ彼は信念の人に成長し、「いかなる場所であろうとも、人間がしっかり立ち上がれば、太陽はそこで輝いている」と悠然と言えるようになるのです。（講演 p.88）

池田博士は仰っています。「ホセ・マルティが、ラテンアメリカが抱える問題を掘り下げたエッセーを『根源へ』と題した時、まさに、人間の内面の根源的な変革を志向していたのではないのでしょうか。ホセ・マルティは、徹して弱者の側に立ち、人々の苦悩と同苦しゆく勇者でありました。マルティ

ホセ・マルティ、フィデル・カストロ、池田大作を語る—よりよき人類への信念(3)

は、「人間にとって、真実かつ唯一の栄光とは、他者への奉仕である」と断言していた」と。(講演 p.89)

池田博士が掲げる仏教思想にはマルティのような人間像が描かれています。教義に「菩薩」という境涯があります。「菩薩」の心の持ち主というのは、無量の心で、尊重の念をもって他者とかかわり、民衆の成長と前進を導く、熱き人格者のことです。民衆と共に歩む、利他主義の人のことを指します。

池田博士はマルティの生きざまを振り返り、このように仰っています。「まさに、ホセ・マルティの生涯は、こうした菩薩の無量の心に溢れていたと、私はみたいのであります。」「ともあれ、すべてが「人間」で決まります。「人間」をつくり、「人間」を結ぶ以外に、崩れざる人類の平和の橋は築けません。」未来のためにどのような人材を育てるか。人と人、国と国を結ぶためにはどのような絆を作っていくのか。(講演 p.90)

混沌とした世界において、平和は妄想だという者がいます。対話と相互理解の努力を優先せず、恐怖やカオスを煽るのです。マルティの考える平和構築は、真実・正義・慈悲・自由の理念の上に成り立つものでした。武器、暴力、権力、戦争は、平和を守るためのものではなく、逆に崩すものとみなしていました。

マルティの言葉に次のようなものがあります。「破壊の軍勢との闘いに、建設の軍勢が勝利を収めるときが訪れた。戦争が唯一の手段だった時代は過ぎさり、今はもはや最後の手段となった。将来は戦争を手段とすることは犯罪となるだろう。」また、このようにも言っています。「臆する心ほど、世の中に害を与えるものはない。迷い、政府の政治的レトリック、輸入政治もしかりだ。」

創価学会インタナショナル(SGI)は、日本の仏教僧である日蓮の法華経の教えに基づいた宗教運動です。世界中の会員が平和、文化、教育のための活動を行っています。ブッダの警句に次のようなものがあります。「意味のない千の言葉よりも、道にかなった一つの言葉の方が安穩をもたらす」と。ホセ・マルティは励ましの人でした。愛する妹に次のような言葉を書き綴っ

(4)

ています。「木をみてごらん。太い枝に、黄金色のミカンや赤いザクロが実るには、どんな時間がかかるか、わかるだろう。人生を極めていくと、あらゆるものが同じプロセスをたどることがわかるのだ」と。マルティは、人間の尊厳に則って、内発的な変革を可能にする力を信じていました。(講演 pp.90-91)

創価学会が教育を重視していることは有名です。創価大学の存在がそれを物語っています。池田博士は、キューバの教育優先政策を称賛しています。教育についてマルティはこのように言っています。「規模はどうか、偉大な国家というのは寛大な男性と純粋な女性を輩出する国家のことである。」「それぞれの人間文明の真価は、その中でどのような種類の男性と女性が生まれるかによって知ることができる」と。また、「学校を植えれば、人材という果実が収穫できる」と確信していました。(講演 p.92)

マルティ主義の継承者フィデル・カストロ

さて、キューバの英雄＝ホセ・マルティと池田大作博士についてここまで話してきましたが、マルティの直系の弟子を自負していたフィデル・カストロについても触れなければなりません。フィデル・カストロは、池田博士に対し、友情の念を抱いておりました。マルティとフィデルという二人の人物は、それぞれが等しくキューバの象徴です。フィデル・カストロは、マルティの価値観と生き方を体現した人です。マルティの100年後に表れたフィデル・カストロ。マルティの再来のような、若き革命のリーダーとして、マルティの時代に先駆けた政治思想を実践していきます。

マルティとフィデルは表裏一体の存在なのです。1953年7月26日のモンカダ兵営襲撃後、被告人となったフィデルの有名な陳述をみれば、マルティがフィデルの精神的支柱であったことは一目瞭然です。フィデルは断言します。「歴史は私に無罪を宣告するだろう。」「私の心には師匠の教えがある、頭には民衆を自由に導く英雄たちの崇高な理念がある」と。

ホセ・マルティ、フィデル・カストロ、池田大作を語る—よりよき人類への信念（5）

やがて、キューバ革命の指導者となったフィデル・カストロはこうも述べています。これは1999年11月12日、ハバナのラテンアメリカ記者協会（FELAP）での有名な演説です。「今日の夢は明日の現実。になるとマルティは断言していた。夢を抱くことからのスタートが大切だ。理想郷を作るところから始めるのだ。」と。フィデル・カストロはもともと、キューバの抱える諸問題について、一人で思案に暮れる理想主義の青年でした。しかし、ただ空想に思いを巡らせるのではなく、現実主義者でもありました。彼には、人間の可能性への確信、実現不可能な理想や夢は存在しないとの確信がありました。

「歴史は私に無罪を宣告する」という獅子吼は、19世紀にマルティが目指した国づくりの精神に溢れています。ハバナ占領を果たした1959年1月1日、社会正義のための革命政権樹立宣言で、フィデル・カストロは、「師匠、ついにやり遂げました。あなたが夢見たキューバを実現します」と叫びます。これは、キューバ革命がマルティ思想に基づいているということを実に物語っています。

物質主義や権力名声欲に相反し、倫理・尊厳・奉仕の精神を根本とした生き方。そのようなホセ・マルティの生き方を、フィデル・カストロと池田大作博士が継承しています。「憎しみより愛しみ」というマルティ思想の根底に、人類愛と人間の尊厳があります。そのマルティの精神に生き抜いたフィデル・カストロの遺灰は、ホセ・マルティの霊廟の近くに収められました。フィデルの墓石は、「この世のすべての栄光はトウモロコシの小さな粒の中に入れてしまうようなものである」（対談 p.32）⁴ というマルティの言葉を表す形をしています。

ホセ・マルティとフィデル・カストロの共通点

ホセ・マルティとフィデル・カストロの共通点は驚くほどたくさんあります。

(6)

まず、「革命の失敗」に関する二人の視点です。スペインからの独立運動の時代的一幕です。独立派の団結の乱れが敗因となり、1878年、スペインとキューバの間に屈辱のサンホン条約が結ばれます。完全独立を勝ち取れなかったことに対し、ホセ・マルティは、「手に持っていた剣を失ったのは、誰かに取り上げられたからではなく、自ら落としたからだ」と苦言を呈します。時は移り、1991年にソ連が崩壊し、東欧のソ連型社会主義の終焉が訪れます。キューバ革命も失敗に向かうだろうと予測するキューバの敵もいました。そんな中、フィデル・カストロはハバナ大学の講堂で歴史に残る演説をします。「キューバの自己破壊はあるかもしれない。革命も崩壊するかもしれない。しかし、現状では、部外者には潰せない。壊すことができるのは我々のみだ。革命が終わるとすれば、それは自ら過ちを犯した時だ」と。

次に、「国際化」についての二人の考え方を比較しましょう。ホセ・マルティは「必要としている人を助けることは義務ではなく幸福なのである。」フィデル・カストロは「国際的な視野を持つことは人類に対する責務だ。他人を守るために戦えないものは、自分のためにも戦えない」と。

続いて、「団結」に関する二人の考え方です。ホセ・マルティは「国家の分裂は、国家の自殺を招く」。フィデル・カストロは、「生存本能、種の保存本能や利益を考えれば、実際のところ、人間が結束を強め、その理念を推し進めるべきである」。

フィデル・カストロと池田大作博士との出会い

池田博士は、反対意見もあるなか、1996年6月キューバを訪れます。その意義をこのように振り返っています。「ともあれ、すべてが「人間」で決まります。「人間」をつくり、「人間」を結ぶ以外に、崩れざる人類の平和の橋は築けません。もとより、それは、地道な作業であり、長い目で見なければな、成果は望めないかもしれない」と。(講演 p.90)

キューバ訪問に先立ち、池田博士はアメリカを訪れます。アメリカ政府が

ホセ・マルティ、フィデル・カストロ、池田大作を語る—よりよき人類への信念（7）

キューバに対し経済制裁を強化し、二国間関係は非常に厳しく、第二のキューバ危機が懸念されていました。緊迫した情勢を変える一助を担おうと、池田博士はキューバに行く決断をします。その前に、アメリカでヘンリー・キッシンジャー国務長官と会見を果たし、キューバ訪問計画の協力を取り付けます。

池田博士はその後、キューバで歓待されます。フィデル・カストロ議長は、通常のオリーブ色の軍服ではなく、珍しく青いスーツを身に着け池田博士を歓迎しました。二人は長時間話し合います。その内容は非公開。池田博士がキューバとアメリカの橋渡しを果たしたのかどうか。もしそうだったとすれば、それは池田博士に対する信頼の賜物でしょう。信頼関係を築くには大変な努力が必要です。しかし池田博士は、文化や教育交流の力を信じ、揺るぎない信頼関係を築いてきました。

昨年（2016年）11月の最高司令官フィデル・カストロ前国家評議会議長の逝去に際し、ご子息の池田博正副会長が駐日キューバ大使館を弔問され、池田博士とS G I 192か国のメンバーを代表し、キューバ国民に対するお悔やみと連帯の念を記帳されました。

あわせて、池田博士はキューバに次のような弔意のことは寄せ、フィデル・カストロ前議長の遺徳を偲びました。「1996年の6月、ハバナにて、偉大なる民衆指導者であられるフィデル・カストロ前議長と、胸襟を開いて語り合わせていただいた折のことは、今なお脳裏に鮮明に焼き付いて離れません。「人材こそ大切な富であり、資源なき国の資源です」とのお言葉通り、偉大なる革命精神を受け継ぐ、宝の人材が、これからも陸続と輩出されることでしょう。」カストロ前議長は「いかなる苦難にも屈せず、いかなる恫喝にも怯まず、いかなる迫害をも勝ち超えて、不屈の信念に生き抜いてくれました」。「民衆の中へ、人間の中へ、そして同志の心の中へ飛び込んで、不眠不休の行動を貫いてこられた」と。

池田博士のイニシアチブにより、キューバと日本の文化教育交流は盛になります。交流拡大のきっかけとなったのが、1987年、民音の招聘により行

(8)

われた音楽コンサートです。このコンサートは大反響を呼びます。この大成功を皮切りに、次々とキューバ音楽と舞踊のコンサートが開催されていくようになります。1995年、エドゥアルド・デルガード・ベルムデス大使が創価大学で講演を行いました。22年後に再び私がキューバ大使として講演をさせていただきます光栄です。1995年、創価学会青年部の公式訪問団がキューバを訪れます。1996年、創価大学とハバナ大学が交換協定を結びます。今年(2017年)9月、グスタボ・コブレイロ総長が来日予定ですので、二大学間の学術交流協定の内容が更新されるのを期待しております。

1983年に池田博士が創立した東京富士美術館においても、二国間の文化交流事業が行われてきました。キューバ国立美術館との共催により、「キューバ国立美術館名作展—19世紀の巨匠たち—スペインとキューバ」、そして、「日本美術の名宝展」が開催されました。

ホセ・マルティが遺した精神的遺産と共に生きる

キューバ革命の目指すものに、ホセ・マルティの倫理観が脈打っています。マルティの生い立ち、彼の自由・独立・正義に関する思想形成、彼の思い描いた新しい人間像。私たちが思索を巡らせ、語り合い、社会生活に生かすことができるマルティ思想はいくらでもあります。

池田博士の場合、マルティ思想で際立つのは努力を惜しまない精神だと仰っています。マルティは、革新的な前進を目指すのであれば、努力を惜しんではいけないと教えています。人間の内面の変革を可能にするのは忍耐力であるとも教えています。マルティは人間の尊厳に対する信念がありました。人間の尊厳こそ、内なる変化を磐石にする要素であると確信していました。マルティのあることばを思い出します。「規模はどうであれ、偉大な国家というのは寛大な男性と純粋な女性を輩出する国家のことである。」「それぞれの人間文明の真価は、その中でどのような種類の男性と女性が生まれるかによって知ることができる」と。(講演 p.92)

ホセ・マルティ、フィデル・カストロ、池田大作を語る—よりよき人類への信念（9）

ハバナ大学はマルティ革命闘争のレガシーを守り続けています。創価大学も創立者の作った歴史から得た指標を次の世代に継承しています。

人生を全力で生き抜いたマルティ。彼の思想は今もおキューバ国民の精神的支柱です。キューバの国境を越え、アメリカの危機を経験したラテンアメリカ諸国でも、マルティ思想は指標となっています。現代社会がマルティ思想に価値を見出し続けている理由は、マルティが貧困層救済の文化、政治、社会、哲学の構築を提唱したからです。

マルティは自分の手でキューバの自由と独立の夢を実現することはできませんでしたが、キューバ国民が不滅のマルティレガシーを大切にしなければ、同様の結果を得ることができるでしょう。万人の利益のための平等な国家、独立国家、主権国家を。1953年のマルティ誕生から100年たち、マルティの精神が消えかけていたとき、フィデル・カストロ率いる若者たちがモンカダ兵営の襲撃を成し遂げます。そしてそのとき、硬い大理石に刻まれていたにすぎないマルティの言葉が、街や田園に放たれたのです。

マルティの精神は死に絶えてはいないのです。キューバ国民のすべての闘争にマルティは生き続けています。私たちは、正しい人間は、日和見主義ではなく、使命感の人、貢献の人であらねばならないことをマルティに教わりました。ラテンアメリカ主義、反帝国主義の考え方もマルティから受け継ぎました。洞窟に押し込まれたとしても、正しい理念は軍隊よりも強いことをマルティから学びました。団結と忍耐が勝利の要諦であることもそうです。

ホセ・マルティの恩恵を受けたのはキューバだけではありません。フィデル・カストロも明言していましたが、マルティは世界にとって、後世に語り継がれるべき創造と人間主義の模範の人であったと。普遍的思想、卓越したビジョン、優れた知性の人。彼は時代のすべてに目を向け、最後まで奔走し、43歳の若さで生涯を閉じました。

そんなマルティの箴言は、今もキューバ人の戦いの糧となっています。シモン・ボリバル、フィデル・カストロ、チェ・ゲバラ、ウゴ・チャベス、昔も今も、革命家たちにとり、マルティは心の糧であり、指標であり、励みで

(10)

あり、ゴリアテを倒すためにダビデの投石器の操り方を教えてくれる存在なのです。

マルティは日本と日本人についてこのようなことを綴ったことがあります。1882年2月4日付のベネズエラ・カラカスのラ・オピニオン・ナショナル新聞に掲載されたことばです。「日本帰りの旅行者が、日本人の繊細さとおもてなしを絶賛していた。複雑で面倒なしきたりは多いが、都会の生活はそうでもないようだ。人間関係には礼節がある。迅速な対応、つましやかな喋り方、日本に対する外国のとっぴな評価をおとなしく受け入れ、異国について失礼がないよう気遣う。米州や欧州を行き来している、ある紳士曰く、旅の友は日本人が一番であると。日本人には節度があり、気配りがあり、都会的な洗練がある。彼は、教養ある日本人ほど気品が高い人種はいないと」

終わりに、創価大学教職員の皆さまの末永いご健勝と、前途有望な若い学生の皆さまの素晴らしい未来を念願しています。マルティは、共和国の第一の原則に「人間の品位に対する尊厳」を定めていました。彼のモットーは「すべての人々とともに、すべての人々のために」でした。本日、そんなマルティの遺徳と教えを、皆さまとともに分かち合える場を設けていただき感謝申し上げます。ありがとうございました。

〔質疑応答〕

フィデル・カストロの逝去がもたらしたもの

男子学生 A キューバはいちばん行ってみたい憧れの国です。今日はそのキューバの大使から貴重なお話が聴けたのはとても幸運で感謝しています。昨年、キューバの精神的支柱であったフィデル・カストロ国家評議会前議長がお亡くなりになりました。心からお悔やみ申し上げます。キューバ国民の皆さんはお悲しみのことと思いますが、そのことがキューバの人々や世界に

どのような影響や変化をもたらしたとお考えでしょうか。

ベレイラ大使 とてもいい質問をしてくれたことに感謝します。昨年のフィデル・カストロ議長逝去は、私たちキューバ国民にとって衝撃をもたらす悲報でありました。そして、キューバ国民のみならず、全世界の人々が悲しみを表してくださいました。世界各国からお悔やみの言葉が届きましたし、日本においても、各分野の皆様から大使館に弔問のお申し出をいただきましたので、記帳台を設けて対応しました。天皇陛下をはじめ多くの方々がお悔やみと連帯の意思を伝えてくださったことに非常に感謝しています。

このたびの逝去によってフィデル・カストロ前議長がどれほど世界の人々の尊敬と敬愛を集めていたかということに改めて実感しています。また、日本とキューバの友好という点でも心を砕いて道を拓いてきたのがカストロ前議長でした。2003年には広島を訪問し、平和記念公園の原爆死没者慰霊碑に献花をし、祈りを捧げました。カストロ前議長は、この不幸を二度と繰り返してはならないとの日本国民の思いを我が思いとして世界に広めていく使命があると自覚し、そしてそのためにも二国間の協調を深めていくことを改めて決意されたのです。ですから日本にとっても大きな存在だったと思います。

フィデル・カストロの国葬、埋葬式には世界各国の高官、31ヶ国の国家元首、8名の副大統領、12名の外務大臣が弔問に訪れました。

そして、キューバ国民にとっては計り知れない大きな衝撃がありました。もちろんフィデルも生身の人間ですからいつかそういう日が来るということは頭ではわかっていたし、その心づもりもしていました。それでもいざその時を迎えてみると、フィデルが永遠に自分たちの道しるべになってくれるかのような、そんな不死の存在のように頼っていたことを思い知らされ、心に空いた穴の大きさに皆ショックを受けているのです。そして恐らく多くのキューバ国民は今もまだその悲しみを乗り越えることができていないと思います。

しかし、私たちはこの悲しみを乗り越えて、フィデルの心を継承して再び立ち上がって戦う使命があります。また、そうしていかななくてはならないと

(12)

決意しています。

フィデル・カストロはキューバのアイデンティティを体現している人でした。つまり、キューバそのものだったのです。私たちは長年にわたり、フィデルの思想をもとに教育を受けてきました。キューバの尊厳をフィデルが教えてくれました。私たちはそのフィデルの師恩に報いなければなりません。マルティ主義に基づくフィデルの思想と理念を私たちが人生を懸けて行動に移し、体現していくことこそがフィデルへの恩返しになると考えています。そのためには、フィデルの銅像を建てるとか広場に名前をつけるとかいったような過去の偉人として崇拝することよりも、未来にわたって私たちの心にフィデルが生き続けて、私たちの行動をもって継承していくことこそが真の報恩なのだと思います。

フィデル・カストロは、キューバ革命の本質は「変えなければならないことがあるのであれば、そのすべてを変えていく」ことだと言っていました。そのことがフィデルの逝去によってレガシーとしてより鮮明になったと思います。よりよい社会を構築していくこと、それを希求していくこと、その使命感をもって社会に貢献していくこと、それこそがキューバ革命なのだということを今、国民全体がその意義をかみしめているのではないかと思います。

平和の夢を実現する人生

女子学生 B 先ほど、カストロ議長の「今日の夢は明日の現実になる」との言葉を紹介してくださいました。ペレイラ大使がこれまでに実現してこられた「夢」のことや、今、最も実現したいとお考えになっている「夢」はなんであるか、ぜひお聞かせください。

ペレイラ大使 私個人のことをお話しできる質問を嬉しく思います。マルティの言葉で自分が特に大切にしているのは「夢を守り抜け」、そして「夢を必ず実現せよ」との教えです。私が胸を張って言えるのは自分自身が抱いた夢の大部分を実現することができたことです。私が夢を叶えることができ

たのは、キューバという国に生まれてその中で様々な経験の中で学ぶことができ、人格形成できたことにあります。

私が外交官になったのもたまたまではなく、この国の国際情勢について大きな使命感を抱くようになったからです。その仕事を通じてホセ・マルティとフィデル・カストロの精神的遺産を守りぬいていくことで祖国キューバに貢献していきたいと思ったのです。それが私自身の「夢」となって外交官の道に進みました。

外交官として働く今、多くの外国の外交官とも接する中で、他の国の外交官は大変な仕事をしているなど感じる場合があります。それは時に答えにくい質問であっても国家を代表して気まずい答えを言わなければならないからです。でも幸いキューバの場合は、私たち大使館が国からこのように答えなさいと拘束されることは何一つないのです。それはキューバという国が一貫した理念に支えられて変わることがないからです。私たちはキューバの理念を共有していますから、どんな質問をされても自分の信念に基づいて自由に答えればよいのです。

そして自分の夢を実現できた要因の一つは私には素晴らしい家族がいるということです。妻と家庭を作り、3人の子供にも恵まれました。私はこの子供たちにキューバで学んだ思想を伝えていきたいのと同時に、池田大作博士の思想も伝えていきたいと願っています。

人生は一つ「夢」が叶ったからと言って終わりではありません。どんどん次々に新たな夢が生まれてきます。だから、夢を見続けていくことです。眠りのなかの夢ではなく、覚醒しているなかで地に足をつけながら夢を見続け、そしてそれを実現していくことが大切だと思います。

国際情勢や人類が直面する課題に対する憂いももちろんあります。それを思えば思うほど平和を希求する心が強くなります。そのことを多くの国の人々が協調しながら平和を実現していくことが人類共通の「夢」ではないでしょうか。

ですから一部の国家指導者が武装を促すような発言をしているのを見ると

(14)

強い憤りを覚えます。武力を強調して脅威を与えるような態度も平和とは逆行しています。私たちはどんな相手とも対話の窓を開いていくことが大事だと考えています。国際情勢の安定化，各国の発展，人間の安全など，どの観点から見ても平和の希求こそが人類最大の「夢」だと考えています。

注

- 1 原題：Diálogo sobre José Martí, Fidel Castro y Daisaku Ikeda : La convicción en el mejoramiento humano
- 2 Carlos Miguel Pereira Hernández, キューバ共和国駐日特命全権大使
- 3 池田大作 SGI 会長によるハバナ大学記念講演「新世紀へ 大いなる精神の架橋を」(1996年6月25日, ハバナ大学アウラ・マグナ講堂)。頁数は池田大作(1996)『新世紀へ 大いなる精神の架橋を』(創価学会広報室刊)より。以下, 同じ。
- 4 シンティオ・ヴィティエール, 池田大作(2001)『カリブ海の太陽 正義の詩「キューバの使徒ホセ・マルティ」を語る』(潮出版社刊)より。対談者シンティオ・ヴィティエールはホセ・マルティ研究所所長(当時)。